

The 6th Annual Meeting of Japanese Association on Sarcopenia and Frailty



第6回 日本サルコペニア・フレイル 学会大会

プログラム・抄録集

百寿のための
サルコペニア・フレイル、
ロコモ対策

会期 2019年 11月9日土・10日日

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

大会長 遠藤 直人 新潟大学大学院医歯学総合研究科
整形外科学分野 教授

第6回日本サルコペニア・フレイル 学会大会

The 6th Annual Meeting of
Japanese Association on Sarcopenia and Frailty

プログラム・抄録集

会期 2019年 11月9日(土)・10日(日)

会場 朱鷺メッセ
新潟コンベンションセンター

大会長 遠藤 直人 新潟大学大学院医歯学総合研究科
整形外科科学分野 教授



事務局

〒951-8585 新潟市中央区旭町通一番町757番地
新潟大学大学院医歯学総合研究科
機能再建医学講座 整形外科科学分野内
TEL: 025-227-2272 FAX: 025-227-0782

運営事務局

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野310 OSMビル1F
株式会社アド・メディック 内
TEL: 025-282-7035 FAX: 025-282-7048
E-mail: jasf6@admedic.co.jp

1日目 2019年11月9日土

	第1会場 4F マリンホール	第2会場 3F 中会議室302	第3会場 2F 中会議室201	第4会場 3F 小会議室303・304	ポスター会場 3F 中会議室301
8:00	8:15～ 開 会 式 8:25～9:25 特別講演 1 AWGSによる新しいサルコペニア診断基準が与えるインパクト 座長：遠藤 直人 演者：荒井 秀典				
9:00	9:30～10:30 特別講演 2 新潟県健康寿命延伸の取り組みー健康立県とフレイル対策ー 座長：柴木 宏実 演者：山崎 理	9:30～10:30 特別講演 5 摂食嚥下障害とフレイル 座長：平野 浩彦 演者：井上 誠	9:30～10:00 Meet the Expert 1 傘寿者対応とDOPPOリハビリ 座長：山本 智章 演者：和泉 徹		9:00～10:00 ポスター貼付
10:00	10:40～12:10 シンポジウム 1 サルコペニア・フレイル対策：地域の最前線 座長：山崎 理 飯島 勝矢 演者：伊藤 真央 佐藤 成登志 田中 友規 牧迫 飛雄馬	10:40～12:10 シンポジウム 3 食を支えるためのオーラルフレイル対策ーエビデンスから地域展開へー 座長：平野 浩彦 演者：田中 友規、本川 佳子 松尾 浩一郎 共催：サンスター株式会社	10:10～10:40 Meet the Expert 2 リハビリテーション栄養によるサルコペニア・フレイル介入 座長：安藤 富士子 演者：若林 秀隆 10:50～11:20 Meet the Expert 3 サルコペニアに対する運動療法ー入院高齢者に対する集団起立運動のススメ 座長：真田 樹義 演者：吉村 芳弘 11:30～12:00 Meet the Expert 4 身体的フレイルとその予防 座長：佐久間 真由美 演者：金 憲経	10:05～11:00 一般演題 1 内科疾患とサルコペニア・フレイル 座長：小幡 裕明 11:05～12:00 一般演題 2 脳血管疾患関連 座長：青木 可奈	10:00～18:00 ポスター閲覧
11:00	12:20～13:20 ランチョンセミナー 1 がん緩和医療と人參養湯 座長：若林 秀隆 演者：乾 明夫 共催：クラシエ薬品株式会社	12:20～13:20 ランチョンセミナー 2 地域高齢者の食品摂取多様性とサルコペニア・フレイル 座長：秋下 雅弘 演者：横山 友里 共催：アボットジャパン株式会社	12:20～13:20 ランチョンセミナー 3 口腔機能低下症への理解を深める！ーフレイル予防の観点からー 座長：飯島 勝矢 演者：松尾 浩一郎 共催：株式会社フードケア		
12:00	13:30～14:00 総 会				
13:00	14:10～15:10 特別講演 3 ビタミンDと運動器の健康 座長：下方 浩史 演者：中村 和利	14:10～15:10 特別講演 6 フレイル、サルコペニア、ロコモの疫学 座長：今井 教雄 演者：吉村 典子	14:10～14:40 Meet the Expert 5 サルコペニア・フレイルの病態と機序について：up to date 座長：木村 慎二 演者：重本 和宏 14:50～15:20 Meet the Expert 6 高齢者における疼痛対策ー薬物、運動から認知行動療法までー 座長：杉本 研 演者：木村 慎二	14:10～14:45 一般演題 3 栄養関連 座長：小山 論 15:10～16:05 一般演題 4 運動器疾患・リハビリテーション 座長：藤縄 理	
14:00	15:20～16:50 シンポジウム 2 栄養療法は、侵襲時のサルコペニアを妨げるか？ 座長：小山 論、葛谷 雅文 演者：山内 克哉、山本 和義 播本 憲史、正道 隆介 共催：株式会社 大塚製薬工場	15:20～16:50 シンポジウム 4 骨粗鬆症脆弱性骨折の現状と対策：百寿への取り組み 座長：山本 智章、原田 敦 演者：佐久間 真由美 島垣 齋、大高 洋平 中村 幸男 共催：第一三共株式会社	16:00～17:30 特別シンポジウム サルコペニア・フレイル指導士はどうあるべきか？ 座長：飯島 勝矢、佐竹 昭介 演者：永江 浩史、高見 靖雄 牧迫 飛雄馬 木下 かほり	16:10～17:05 一般演題 5 疫 学 座長：大橋 正幸 17:10～18:05 一般演題 6 診断・基礎 座長：近藤 直樹	
15:00	17:00～18:00 特別講演 4 ポリファーマシーとサルコペニア・フレイル 座長：吉嶺 文俊 演者：秋下 雅弘	17:00～18:00 特別講演 7 サルコペニア・フレイルの視点からの認知症 座長：神崎 恒一 演者：小野寺 理			
16:00					
17:00					
18:00					
19:00	18:30～20:30 懇 親 会 会場：ホテル日航新潟 31F 展望室				

2日目 2019年11月10日(日)

	第1会場 4F マリンホール	第2会場 3F 中会議室302	第3会場 2F 中会議室201	第4会場 3F 小会議室303・304	ポスター会場 3F 中会議室301
8:00					
9:00	9:00～10:00 特別講演 8 ロコモティブシンドロームと介入による治療効果について ～腰部脊柱管狭窄症を中心として～ 座長：秋下 雅弘 演者：松本 守雄	9:00～10:30 シンポジウム 6 サルコペニアとCKD：病態から治療まで ～日本腎臓学会との合同シンポジウム～ 座長：葛谷 雅文、鈴木 芳樹 演者：葛谷 雅文、鈴木 芳樹、磯 良崇、佐藤 弘恵、加藤 明彦	9:00～9:30 Meet the Expert 7 がんロコモとサルコペニア・悪液質 座長：亀山 仁史 演者：川島 寛之 9:40～10:10 Meet the Expert 8 高齢者脆弱性骨折の現状とロコモ、フレイルとの関連 座長：古賀 寛 演者：今井 教雄 10:20～10:50 Meet the Expert 9 体幹筋力低下と脊柱変形に伴う難治性腰痛症への対策：運動療法から外科治療まで～ 座長：重本 和宏 演者：渡邊 慶	9:00～9:55 一般演題 7 予防・医療行政 座長：依田 拓也	9:00～15:00 ポスター閲覧
10:00	10:10～11:40 シンポジウム 5 ロコモ対策は百寿の根幹 座長：荒井 秀典 田中 栄 演者：大江 隆史 竹下 克志 松井 康素	10:40～12:10 シンポジウム 7 肥満とサルコペニア、そのシフトチェンジと関連メカニズム 座長：石井 好二郎 植木 浩二郎 演者：石澤 正博 田村 好史 佐久間 邦弘 町田 修一		10:00～10:55 一般演題 8 嚥下・その他 座長：木村 慎二	10:00～10:30 ポスターセッション 2 10:30～11:00 ポスターセッション 3
11:00				11:00～11:55 一般演題 9 高齢者とサルコペニア・フレイル 座長：田仕 英希	ポスター閲覧
12:00					
13:00	12:10～13:10 ランチョンセミナー 4 これからの社会に求められる口腔機能管理や栄養管理 座長：荒井 秀典 演者：櫻井 薫 共催：株式会社クリニコ	12:20～13:20 ランチョンセミナー 5 高齢者のフレイル・サルコペニアと漢方薬 座長：神崎 恒一 演者：小川 純人 共催：株式会社ツムラ	12:20～13:20 ランチョンセミナー 6 変形性関節症の疫学：住民コホート研究ROADより 座長：桑木 宏実 演者：吉村 典子 共催：帝人ファーマ株式会社		
14:00	13:40～15:10 市民公開講座 百寿のために：ロコモ・フレイルを知ろう 座長：荒井 秀典 今井 教雄 演者：吉村 典子 荒井 秀典 田中 栄 牧迫 飛雄馬 小川 純人	13:30～15:00 シンポジウム 8 フレイル対策 ～認知、精神、社会的側面からのアプローチ～ 座長：櫻井 孝 神崎 恒一 演者：池内 健 福井 直樹 飯島 勝矢			13:30～14:00 ポスターセッション 4
15:00	15:10～ 閉会式				15:00～15:30 ポスター撤去
16:00					

サルコペニア・フレイル指導士新潟研修会について

会期：2019年11月10日(日) 9:00～16:30

【座学】日時：9:00～14:00

会場：万代島ビル 6F 会議室(学会場隣接)

【実技】日時：14:10～16:30

会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 小会議室 3F 303・304／306・307

第6回日本サルコペニア・フレイル学会大会開催にあたり

百寿のためのサルコペニア、フレイル、ロコモ対策



第6回 日本サルコペニア・フレイル学会大会

会 長 遠藤 直人 新潟大学大学院医歯学総合研究科
整形外科学分野

第6回日本サルコペニア・フレイル学会大会にご参加をいただき、ありがとうございます。このたび、新潟市朱鷺メッセにて開催し、その会長を務めさせていただくことを大変光栄に存じます。理事、監事、名誉理事、顧問の方々、会員および関係の方々に心より感謝申し上げます。

現在の日本の社会では高齢者の「要介護・寝たきり」は喫緊の課題です。人は年齢を重ねる（いわゆる、年をとる）と他からの手助けを必要といたします。高齢者の増加に伴い、手助けを必要とする方も増え、一方、少子であることなどにより、家庭内や地域において介護力が不足しております。したがって健康寿命を延伸し、自立を維持する（手助け・介護が必要でない、あるいは最小で済む）ように国、自治体、また地域をあげて積極的に取り組んでおられます。取り組みを進めている中で、虚弱な高齢者（自立の低下）を自立へと導くためにはどのような介入が有効なのか、どのようなシステムを構築して対応をしたらよいのだろうか、などと苦労しておられる最前線の現場もあろうかと思えます。本学会には医師、メディカルスタッフ、行政、企業をはじめ関連の方々が参加されております。各地での取り組み状況やそれぞれの立場からの意見や提案があり、また多くの専門家からの発表があり、いずれも見逃せない、聞き逃せない内容と思います。さらに地域ではどのような取り組みが行われているのか、将来の方向性はどのようなのか、重要な最新の知見を得ることができ、関連の方々との意見交換の場となりますことを願っております。

本学会のテーマは「百寿のためのサルコペニア、フレイル、ロコモ対策」です。フレイル（身体的フレイル、精神・認知的フレイル、社会的フレイル）、ロコモ、サルコペニアは似たところもあり、重複もあります。概念としては身体的フレイルとロコモは大まかに重なっているように考えられています。身体的なフレイルは回復が期待できる（可逆性）状態ですが、ロコモは可逆性から不可逆な状態までを含んでいるものです。ロコモは足腰の弱った軽度の運動（移動）機能低下から骨粗鬆症、変形性関節症、腰部脊柱管狭窄症、サルコペニアなどの疾患までを包含しており、広範なものです。逆に言えば、足腰を丈夫にし、移動能力を維持しておくことは自立を維持するためには根幹となるべき要件でもあるように思います。今後、実際の症例を分析することにより、ロコモや身体的フレイルのそれぞれとその関連についての報告が集まってくるものと思います。大変楽しみです。同時に大切なことはサルコペニア、フレイル、ロコモのこの3者は決して別個な目標を掲げているのではなく、むしろ目指しているところはいずれも「寝たきりゼロ、健康寿命延伸」ですので、お互いに関係を深め、協力して社会への啓発とアピールを行うとともに該当者への介入・対策を進めていくことが重要です。

この時期、新潟の秋も楽しんでいただきたいと思います。食（米、酒、笹団子、枝豆、油揚げ等）、山（634mの弥彦山、麒麟山、八海山、妙高山など）と海（夕日が沈む日本海）と川（信濃川、阿賀野川）、さらに錦鯉（小千谷）、朱鷺（佐渡）と棚田、縄文式火焰土器（十日町、津南）、温泉、（残念ですが、今の時期は長岡や片貝の花火や雪はありません）など見ていただきたいものばかりですので、時間の許すかぎり、自然豊かな新潟全県を「経験」していただきたいと思います。健康寿命と関連する何かを、思いつくことにつながるかもしれません。周りの方々にもご紹介いただき、関心のある方には参加を促していただけますようお願いいたします。大勢のご参加を新潟にてお待ちしております。

開催概要

1. 会議名称 第6回日本サルコペニア・フレイル学会大会
2. テーマ 百寿のためのサルコペニア、フレイル、ロコモ対策
3. 会 期 2019年11月9日(土)・10日(日)
4. 会 場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
〒950-0078 新潟市中央区万代島6-1
5. 大会長 遠藤 直人(新潟大学大学院医歯学総合研究科 整形外科学分野 教授)
6. 事務局 新潟大学大学院医歯学総合研究科 整形外科学分野内
佐久間 真由美、今井 教雄
〒951-8510 新潟市中央区旭町通1番町757
TEL : 025-227-2272 FAX : 025-227-0782
7. 運営事務局 株式会社アド・メディック内
〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野310
TEL : 025-282-7035 FAX : 025-282-7048
E-mail : jasf6@admedic.co.jp

〈理事会・各種委員会のご案内〉

理事会：11月8日(金) 16:00～18:00 ホテル日航新潟 3F「孔雀」

研究発表会開催履歴

第1回研究発表会	会 期	2014年10月19日(日)
	会 場	伊藤国際学術研究センター(東京)
	世話人代表	荒井 秀典(京都大学大学院医学研究科)
第2回研究発表会	会 期	2015年10月4日(日)
	会 場	伊藤国際学術研究センター(東京)
	世話人代表	田中 栄(東京大学医学部 整形外科)
第2回アジアフレイル サルコペニア学会 (2nd Conference for Frailty and Sarcopenia)	会 期	2016年11月4日(金)～5日(土)
	会 場	今池ガスビルホール(名古屋)
	世話人代表	荒井 秀典(国立長寿医療研究センター)
第3回研究発表会	会 期	2016年11月6日(日)
	会 場	今池ガスビルホール(名古屋)
	世話人代表	葛谷 雅文(名古屋大学大学院医学系研究科)
第4回学会大会	会 期	2017年10月14日(土)～15日(日)
	会 場	同志社大学今出川校地 寒梅館(京都)
	大 会 長	石井 好二郎(同志社大学スポーツ健康科学部 教授、 同志社大学体力医科学研究センター長)
第5回学会大会	会 期	2018年11月10日(土)～11日(日)
	会 場	ソラシティカンファレンスセンター(東京)
	大 会 長	飯島 勝矢(東京大学高齢社会総合研究機構 教授)

役員名簿

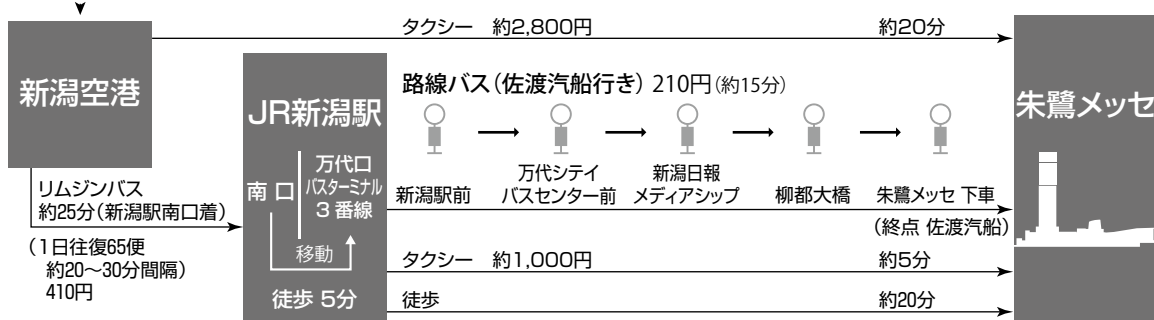
名誉会員	下方 浩史	名古屋学芸大学 健康栄養研究所
	鈴木 隆雄	桜美林大学 老年学総合研究所
	田中 清	神戸学院大学 栄養学部 栄養学科
	原田 敦	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 整形外科
顧問	大内 尉義	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
	鳥羽 研二	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
	中村 耕三	国立障害者リハビリテーションセンター
代表理事	荒井 秀典	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
理事	秋下 雅弘	東京大学医学部附属病院 老年病科
	飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構
	遠藤 直人	新潟大学大学院医歯学総合研究科 機能再建医学講座 整形外科科学分野
	金 憲経	東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム
	葛谷 雅文	名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医学・老年科学教室
	神崎 恒一	杏林大学 医学部 高齢医学教室
	小原 克彦	愛媛大学 社会共創学部 スポーツ健康マネジメントコース
	真田 樹義	立命館大学 スポーツ健康科学部
	重本 和宏	東京都健康長寿医療センター研究所 老年病態研究チーム
	島田 裕之	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター
	田中 栄	東京大学医学部附属病院 整形外科
	堀江 重郎	順天堂大学 医学部 泌尿器科学講座 泌尿器外科学
	吉村 芳弘	社会医療法人社団熊本丸田会 熊本リハビリテーション病院 リハビリテーション科
	若林 秀隆	横浜市立大学附属市民総合健康センター リハビリテーション科
	石井 好二郎	同志社大学 スポーツ健康科学部
	吉村 典子	東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター 関節疾患総合研究講座
	安藤 富士子	愛知淑徳大学 健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科
	平野 浩彦	東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科
	佐久間 邦弘	東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院
	植木 浩二郎	国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター
	楽木 宏実	大阪大学大学院 医学系研究科 内科学講座 老年・総合内科学
監事	小川 純人	東京大学医学部附属病院 老年病科
	佐竹 昭介	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 老年内科部
	杉本 研	大阪大学大学院 医学系研究科 内科学講座 老年・総合内科学

会場アクセス



■アクセス(朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター)

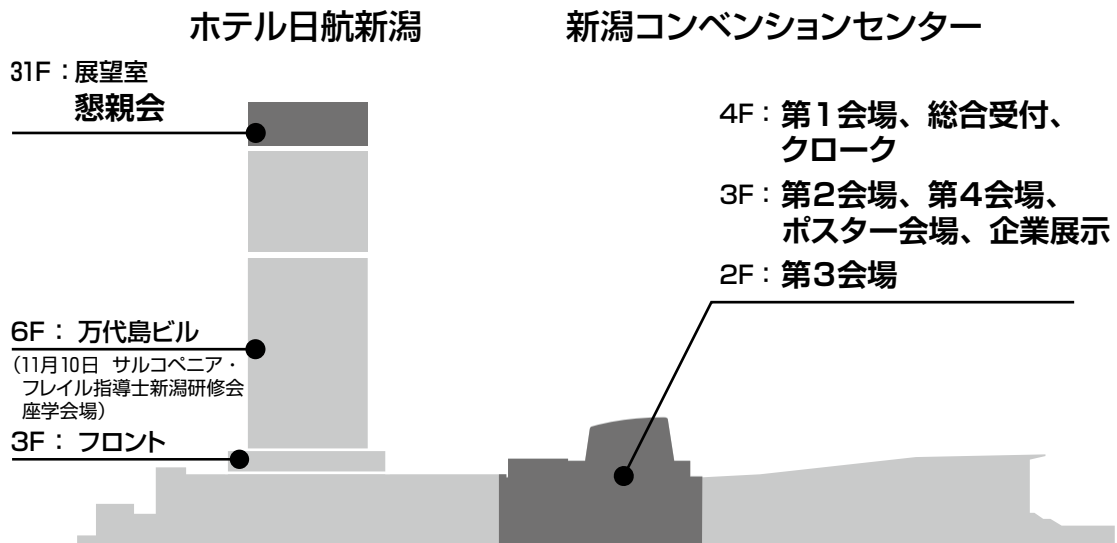
飛行機を利用する	札 幌	新千歳空港	約1時間15分	新潟空港
	成 田	成田空港	約1時間10分	
	大 阪	大阪国際空港(伊丹空港)	約1時間	
	名古屋(中部国際)	中部国際空港	約1時間	
	名古屋(小 牧)	県営名古屋空港	約1時間	
	福 岡	福岡空港	約1時間40分	
	沖 縄	那覇空港	約3時間	



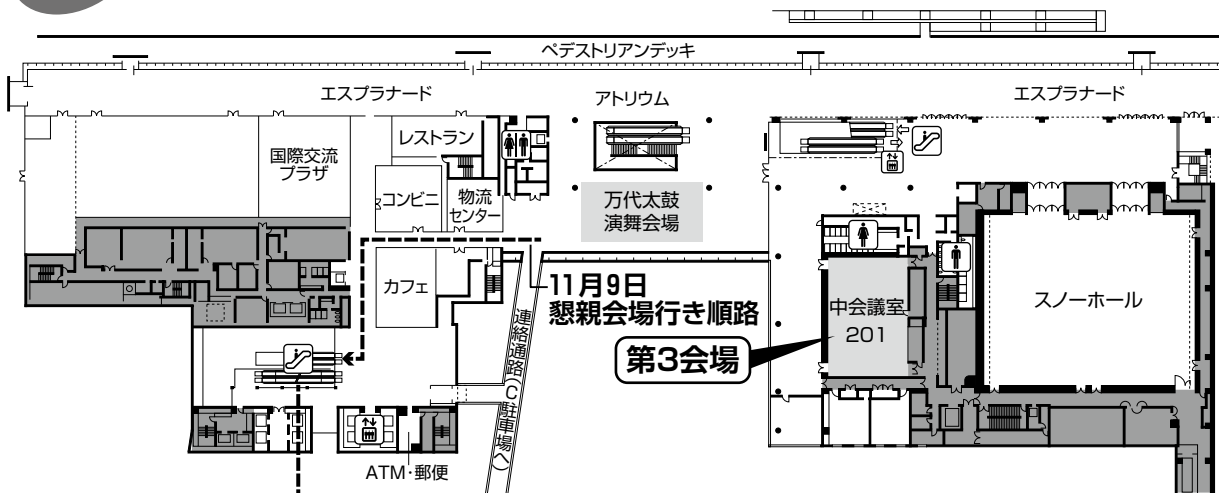
 鉄道を 利用する	秋田	特急いなほ				約4時間	JR新潟駅
	仙台	東北新幹線	JR大宮駅	上越新幹線		約3時間50分	
	東京	上越新幹線				約2時間	
	金沢	北陸新幹線	上越妙高駅	特急しらゆき		約3時間10分	
	名古屋	東海道新幹線	JR東京駅	上越新幹線		約3時間30分	
	大阪	東海道新幹線		上越新幹線		約5時間	

● <http://www.jrniiqata.co.jp/>

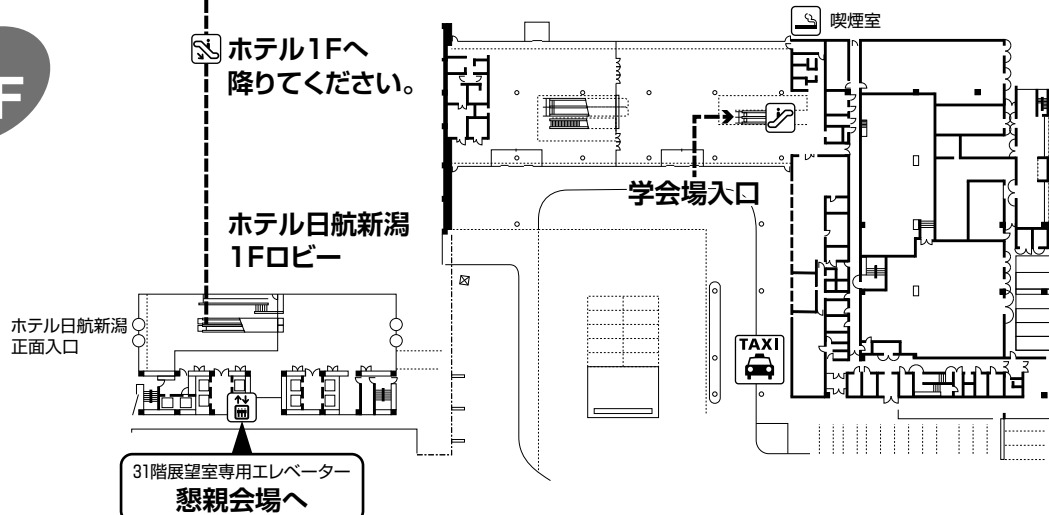
会場案内図



2F



1F



4F

総合受付

- ・当日受付
- ・単位受付
- ・ランチョンセミナー
整理券配布

PC受付

クローク

ホワイエ

特別
応接室

第1会場

マリンホール

第4会場

3F

ポスター会場

企業展示

第2会場

中会議室
301

中会議室
302

小会議室
303・304

小会議室
305

小会議室
306

小会議室
307

2F

ペDESTリアンデッキ

エスプラナード

アトリウム

11月9日
万代太鼓
演舞会場

入口

多目的広場
駐車場へ

第3会場

中会議室
201

スノーホール

小会議室
202

小会議室
203

小会議室
204

参加者へのご案内

1. 当日参加費（プログラム・抄録集代含む）

会 員： 8,000 円

非会員：10,000 円

学 生： 6,000 円（大学院生は除く）

当日受付にて学生証をご提示ください。

2. 受付場所・日時

総合受付：4階 ホワイエ

日 時：11月9日（土）7:30～17:00

11月10日（日）8:00～13:30

- ・事前参加登録をされた方は、事前にお送りした参加証を忘れずにお持ちください。ネームホルダーを総合受付前の記名台からお取りいただき、会場内では参加証を首から提げて着用してください。
- ・当日参加申込の方は、総合受付にて参加費をお支払いいただき、参加証（兼領収書）をお受け取りください。
- ・会員の方には、事前に抄録集を送付しております。
- ・非会員で当日参加申込の方には、参加登録時、抄録集も合わせてお渡しします。
- ・抄録集は総合案内にて販売いたします（1部：2,000円）。

3. ランチョンセミナー

ランチョンセミナーの参加には整理券が必要です。セミナー参加をご希望の方は当日4階総合受付の「ランチョンセミナー整理券配布所」にて整理券を配布いたしますので、整理券をお受け取りください。

- ・整理券は一人1枚限りで配布は先着順とし、なくなり次第配布を終了します。
- ・配布時間終了後、整理券が残っている場合は、各セミナー会場前で配布いたします。
- ・整理券はお弁当の引換券を兼ねていますので、会場へのご入場の際は必ずご持参ください。
- ・整理券はランチョンセミナー開始をもって無効となり、整理券をお持ちでないキャンセル待ちの方が入場可能となります。整理券をお持ちの方は、セミナー開始前までにご入場ください。
- ・セミナー整理券と研修単位受講申し込みは同一ではありません。研修単位が必要な方は、別途「単位受付」にて受講前に受付をしてください。

整理券の配布時間：11月9日（土）7:30～11:00

11月10日（日）8:00～11:00

4. 企業展示のご案内

3階 ホワイエに設置します。

5. クローク

場 所：4階 ホワイエ

日 時：11月9日(土) 7:30～18:20

11月10日(日) 8:00～15:20

※11/9の懇親会に参加される方は、一度お荷物をお引き取りいただき、懇親会場内のクロークに改めてお預けください。

6. 懇 親 会

下記日時に参加者の意見交換の場として「懇親会」を行います。

学会場隣接のホテル内となりますので、アクセスも非常に便利です。

学会場の朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンターと懇親会場のホテル日航新潟をつなぐ、2階アトリウムにて、新潟市に伝わる創作和太鼓の郷土芸能である「万代太鼓」の演舞を披露します。是非多くの皆様よりご参加をお待ちしております。

日 時：11月9日(土) 18:30～20:30

会 場：ホテル日航新潟 31階 展望室

会 費：3,000円 総合案内にて販売します(定員になり次第終了)。

〈万代太鼓演舞〉

日 時：11月9日(土) 18:10～18:20(予定)

会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 2階 アトリウム

7. 無料 Wi-Fi

公共スペースにて無料 Wi-Fi をご利用いただけます(会場内ではご利用いただけません)。

SSID：TOKI Messe Free_WiFi

パスワード：free0001

8. サルコペニア・フレイル指導士新潟研修会について(※事前申込制、定員に達し次第終了)

サルコペニア・フレイル指導士新潟研修会は、学会に参加される会員のみ申込が可能です。

※指導士研修会のみ参加は不可です。

なお、発表者である場合、ご自身の発表時間に研修会を中座することは、研修会の主催である日本サルコペニア・フレイル学会より特別に認められています。

発表後にはすみやかに研修会へお戻りいただきますようお願いいたします。

会 期：11月10日(日) 9:00～16:30

〈座 学〉

時 間：9:00～14:00

会 場：万代島ビル 6階 会議室(学会場隣接) P6参照

〈実 技〉

時 間：14:10～16:30

会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 小会議室 3階 303・304/306・307

【各種単位取得について】

単位受付について

日 時：11月9日（土）7:30～17:00 ※11月10日分もお申込みいただけます。

11月10日（日）8:00～12:30

場 所：4階 ホワイエ 総合受付内「単位受付」

取得可能な単位	受講料	取得方法
日本整形外科学会※	1単位につき1,000円	会期中の申込みのみとなります。 学会当日、単位受付にお越しください。
日本リハビリテーション医学会※	1セミナーにつき1,000円	
日本作業療法士協会	無 料	会期中、単位受付にお越しいただく必要はありません。後日、参加したことが分かるものを添付し、所属の協会へお申し出ください。
日本理学療法士協会	無 料	
日本骨粗鬆症学会	無 料	
日本栄養士会	無 料	
日本薬剤師研修センター	無 料	単位受付にて研修シールを配布いたします。

※日整会教育研修講演単位：2018年4月1日以降、1日又は1学会で取得できる単位の上限がなくなりました。

※日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医生涯教育：1講演10単位。最大取得は、2日間で20単位（日本専門医機構リハビリテーション科専門医：1講演1単位。最大取得は、2日間で2単位）。

【日本整形外科学会教育研修単位】

日本整形外科学会教育研修単位取得可能な講演・セミナーは、次ページにてご確認をお願いします。

〈受講者の皆様へ注意事項〉

日本整形外科学会 教育研修会単位受付は従来の受講証明書による単位取得報告から、デジタル化された単位取得報告となっております。

会員カードを利用して教育研修会の受講管理が行われます。

受講証明書を記入し投函していた従来方式に代わり、IC 会員カードを端末にかざすことにより、教育研修会単位取得とする方式となります。

教育研修会単位取得には、必ず日本整形外科学会の IC 会員カードをご持参ください。

※ IC 会員カードをお忘れの方には、仮カード発行窓口で仮 IC 会員カードを作っていただけます。ただし、作成には保証金（2,000円）が必要となりますのでご了承ください。保証金はお帰りの際に仮カードと引き換えに発行窓口で返金いたします。

1) 取得可能単位数について

日本整形外科学会教育研修会の単位取得は2018年4月1日以降、上限がなくなりました。

2) 教育研修単位取得講演の受講手続きについて

①単位受付にて、講演開始10分前までに受講手続きをお取りください。ただし、規定の人数に達した場合、入場できないことがありますので、ご了承ください。

②講演会場での手続き

講演開始10分前から、講演開始後10分までに IC 会員カードまたは仮 IC 会員カードを講演会場入口のカード読み取り機にかざして出席登録を行ってください。10分を過ぎた場合や、受講手続きが完了していない場合は、途中退場された場合には単位取得はできませんのでご注意ください。受講手続きを行った講演と実際に受講する講演が

異なった場合は、入場時に IC 会員カードまたは仮 IC 会員カードをカード読み取り機にかざしますと警告音が鳴り、単位取得ができませんのでご注意ください。

③研修単位取得状況の確認と受講必須分野の振り替えについて

研修単位取得状況の確認と受講必須分野の振り替えは日整会ホームページ上で行うことができます。

カードをかざして取得した単位は、自動的に整形外科専門医単位の小さな方の分野番号として付与されます。

例) N1、N3、R の選択肢があった場合、自動的に N1 に入ります。

他の分野番号への変更は、日整会会員専用ページの「専門医制度取得単位照会」⇒「単位振替システムへ」⇒「単位取得履歴一覧」でご変更ください。資格期限内であれば、何度でも変更可能です。

[日本整形外科学会教育研修単位]

日	時 間	会 場	セッション名	セミナー番号	演題名	演 者	日整会		日本リハビリテーション医学会
							認定単位	必須分野	
11月9日(土)	8:25 ～9:25	第1会場 (4階 マリンホール)	特別講演1	SL1	AWGS による新しいサルコペニア診断基準が与えるインパクト	荒井 秀典	N	14-4	○
	9:30 ～10:30	第1会場 (4階 マリンホール)	特別講演2	SL2	新潟県の健康寿命延伸の取り組み ―健康立県とフレイル対策―	山崎 理	N	14-4	○
	9:30 ～10:30	第2会場 (3階 中会議室302)	特別講演5	SL5	摂食嚥下障害とフレイル	井上 誠	N	13	○
	12:20 ～13:20	第1会場 (4階 マリンホール)	ランチョンセミナー1	LS1	がん緩和医療と人参養栄湯	乾 明夫	N	1,5	○
	12:20 ～13:20	第2会場 (3階 中会議室302)	ランチョンセミナー2	LS2	地域高齢者の食品摂取多様性とサルコペニア・フレイル	横山 友里	N	1, 4	○
	12:20 ～13:20	第3会場 (2階 中会議室201)	ランチョンセミナー3	LS3	口腔機能低下症への理解を深める！ ―フレイル予防の観点から―	松尾 浩一郎	N	4, 13	○
	14:10 ～15:10	第1会場 (4階 マリンホール)	特別講演3	SL3	ビタミン D と運動器の健康	中村 和利	N	4	○
	14:10 ～15:10	第2会場 (3階 中会議室302)	特別講演6	SL6	フレイル、サルコペニア、口コモの疫学	吉村 典子	N	4	○
	17:00 ～18:00	第1会場 (4階 マリンホール)	特別講演4	SL4	ポリファーマシーとサルコペニア・フレイル	秋下 雅弘	N	14-4	○
	17:00 ～18:00	第2会場 (3階 中会議室302)	特別講演7	SL7	サルコペニア・フレイルの視点からの認知症	小野寺 理	N	14-4	○
11月10日(日)	9:00 ～10:00	第1会場 (4階 マリンホール)	特別講演8	SL8	ロコモティブシンドロームと介入による治療効果について ―腰部脊柱管狭窄症を中心として―	松本 守雄	N	4	○
	12:20 ～13:20	第2会場 (3階 中会議室302)	ランチョンセミナー5	LS5	高齢者のフレイル・サルコペニアと漢方薬	小川 純人	N	1, 4	○
	12:20 ～13:20	第3会場 (2階 中会議室201)	ランチョンセミナー6	LS6	変形性関節症の疫学：住民コホート研究 ROAD より	吉村 典子	N	1, 4	○

日本整形外科学会 教育研修会 単位
(N)は専門医資格継続単位

専門医必須14分野

- [1] 整形外科基礎科学
- [4] 代謝性骨疾患(骨粗鬆症を含む)
- [5] 骨・軟部腫瘍
- [13] リハビリテーション(理学療法、義肢装具を含む)
- [14-4] 指導医講習会、保険医療講習会、臨床研究/臨床試験(医療保健など)に関する講習会など

【日本リハビリテーション医学会】

当日は研修会受講証を発行いたします。

受講証は、教育講演を受講した証明として、「専門医・認定臨床医単位取得自己申請用紙」に添付して後日事務局に送付してください。

日本専門医機構認定リハビリテーション科専門医1単位、日本リハビリテーション医学会認定臨床医10単位になります。

※生涯教育講演受講での会期中の最大取得単位は、日本専門医機構認定リハビリテーション科専門医が2単位、日本リハビリテーション医学会認定臨床医が20単位を上限とします。

【日本作業療法士協会】

対 象：発表者・参加者

ポイント：参加（90分以上～1日）：1ポイント、参加（2日以上）：2ポイント

発 表：1筆頭演者につき1ポイント加算

講師（90分～1日）：1ポイント加算、講師（2日以上）：2ポイント加算

申 請：学会後、参加・発表したことが分かるものを添付し、所属する都道府県作業療法士会へ申請することにより、ポイントの取得が可能。

問 合 先：日本作業療法士協会事務局

TEL：03-5826-7871 FAX：03-5826-7872

生涯教育制度基礎研修ポイント付与に関しまして、詳しくは日本作業療法士協会ホームページをご参照ください。

【日本理学療法士協会】

対 象：発表者・参加者

単 位：参加10ポイント（認定・専門理学療法士履習ポイント基準1-7に該当）

発表5ポイント（認定・専門理学療法士履習ポイント基準4-6に該当）

申 請：申請に際しては、必ず以下の協会ホームページに記載されている「履修ポイント登録の申請について」を熟読ください。

<http://www.japanpt.or.jp/members/lifelonglearning/point/>

認定・専門理学療法士申請時に、申請本人が参加の場合は参加証のコピー、発表の場合は抄録のコピーを添付して協会事務局に送付する。

問 合 先：公益社団法人日本理学療法士協会事務局

TEL：03-5414-7911 FAX：03-5414-7913

E-mail：ninteisenmon@japanpt.or.jp

生涯学習ポイント付与に関しまして、詳しくは日本理学療法士協会ホームページをご参照ください。

【日本骨粗鬆症学会】（認定番号：190289）

研 修 単 位：認定医5単位（非基本）、骨粗鬆症マネージャー3単位

単位取得方法：本人の名前の記載された学術集会参加証（コピー可）を日本骨粗鬆症学会認定教育研修会受講証として取り扱います。

学会参加の証として、認定更新時までご自身で保管してください。

当日、受講証は配布しません。また、参加者名簿の記載も不要です。

詳細は日本骨粗鬆症学会へご確認ください。

座長・演者へのご案内

座長の方へ

1. 口演セッション

- 1) 座長は担当セッション開始15分前までに、会場最前列の次座長席にお着きください。
- 2) 座長は開始の合図が入り次第、登壇しセッションを開始してください。
- 3) 第4会場では、セッション開始のアナウンスはありません。
時間になりましたら、登壇しセッションを開始してください。
- 4) 口演・討論を含めて時間内で終了するようにご協力ください。

2. 発表時間

一般口演：発表6分＋討論3分 計9分

Meet the Expert：各30分（質疑含む）

シンポジウム：座長一任

一般口演の演者の方へ

- 1) 口演時間6分で討論時間が3分です。時間厳守をお願いします。
- 2) 演者は前の演者が登壇したら、次演者席にご着席ください。
- 3) 口演中のPCの進行は、演者ご自身でお願いいたします。
- 4) 口演時間の経過は口演終了時間1分前に予告ランプ、口演終了時に赤ランプが点灯します。

1. PC 受付

- 1) ご発表の60分前（朝一番のセッションは20分前）までに、「PC 受付」で動作確認を行ってください。
- 2) PC 受付の場所と受付時間は、以下の通りです。
場 所：4階 ホワイエ
受付時間：11月9日（土） 7:30～17:30
11月10日（日） 8:00～14:00

2. 発表方法

- 1) 発表は、PowerPoint による PC 発表のみとします。
Windows の場合は CD-R または USB メモリのメディアでお持ちください。
動画のある方と Macintosh の場合は必ずご自身の PC をお持ちください。
- 2) 盗難防止につき、発表時には手荷物を壇上へお持ちください。

【メディアをご持参される場合】

事務局で用意いたします PC の OS は、Windows10 となります。

- 1) データは PowerPoint にて作成してください。

CD-R または USB メモリに保存して、データをご持参ください。

データファイル名は「演題番号」「氏名」の順で付けてください。

【例】01-1 山田太郎

- 2) 今回ご用意しておりますコンピュータの OS と対応アプリケーションは以下のとおりです。

OS：Windows10

アプリケーション：PowerPoint 2010／2013／2016

※ Macintosh 版 PowerPoint でデータを作成された場合、Macintosh 本体をご持参ください。

- 3) データ表示における不具合を避けるために、OS 標準フォントをお使いください。
- 4) ビデオファイルなどスライドにリンクするファイルは、1つのフォルダに入れてください。
Windows の場合は、Windows Media Player、Macintosh の場合は、Quick Time Player で動作する形式で作成してください。
- 5) データは、PC 受付にて受け取り、サーバーに保存し、学会終了後に責任を持って消去いたします。
- 6) PC 受付では、ウイルスセキュリティを最新に更新し、万全を期しておりますが、ウイルスに定義されていない未知のウイルスに感染する場合がございます。

【PC を持参される先生方へのお願い】

- 1) 電源アダプターを忘れずにお持ちください。外部出力端子は、Mini D-sub15 ピンです。
- 2) iPad や Surface、その他タブレット端末については、動作の保証はできかねます。
ご使用される場合、発表者の皆様の自己責任において、ご使用をお願いします。
- 3) Macintosh などパソコン本体に Mini D-sub15 ピン端子がない機種をお持ちになる場合、変換アダプターを忘れずにお持ちください。事務局でのご用意はございません。
- 4) スクリーンセーバーならびに省電力設定はあらかじめ解除してください。
解除されていない場合、スライド受付にて設定を変更させていただきます。
- 5) 起動時にパスワードなどを設定している場合は、必ず解除しておいてください
- 6) 故障などのトラブルに備えて、念のためバックアップデータをお持ちください。
- 7) 演者は PC 受付にて持参した PC の動作確認の後、口演会場内の PC オペレーター席に PC 本体を提出し、接続チェックを行ってください。
- 8) 講演終了後、PC オペレーター席にて PC 本体をご返却致しますので、速やかにお引き取りください。

ポスター演者の方へ

1. ポスター貼付・撤去について

演者はポスター貼付時間内に掲示を済ませてください。

なお、会場ご到着時間により貼付時間を過ぎる場合でも、ご自身の発表時間までには貼付をお済ませください。

2日目に発表の方で、1日目に貼付ができない場合は、2日目の朝に貼付をお願いします。

貼付、発表、撤去時間、およびポスターサイズは下記のとおりです。

ポスターは各自責任をもって下記時間内に撤去してください。

時間を過ぎても撤去されていない演題は運営事務局にて撤去・処分させていただきますので、ご了承ください。

■11月9日(土)

〈ポスター貼付・閲覧〉 9:00～18:00

〈ポスター発表〉 17:15～17:45(ポスターセッション1)

■11月10日(日)

〈ポスター貼付・閲覧〉 9:00～14:30

〈ポスター発表〉 10:00～10:30(ポスターセッション2)

10:30～11:00(ポスターセッション3)

13:30～14:00(ポスターセッション4)

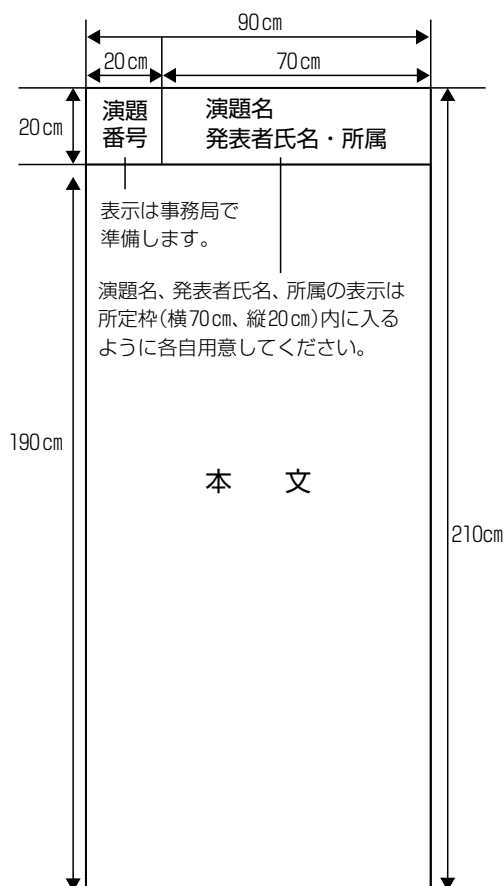
〈ポスター撤去〉 15:00～15:30

2. ポスターパネルについて

ポスターパネルサイズは縦210cm×横90cm(タイトル・演題番号含む)です。

演題名・所属・氏名(右上:縦20cm×横70cm内)及び発表内容(縦190cm×横90cm内)は、ご自身でご用意ください。

演題番号(左上:縦20cm×横20cm)及び画鋏は、運営事務局で用意いたします。



3. ポスター発表について

ポスターセッションは自由討論となります。各セッション時間になりましたら、演者は各自ポスター前にて随時、説明を行ってください。

利益相反(COI)の開示について

口演発表・ポスター発表ともに、利益相反の開示をお願いいたします。

作成例を参考に、発表スライドの1枚目または、ポスターパネルの右下に提示してください。

口演発表時のスライドサンプル

スライド例	スライド例																		
利益相反の開示 筆頭発表者名: ●● ●● 私の今回の演題に関連して、 開示すべき利益相反はありません。	利益相反の開示 筆頭発表者名: ●● ●● 私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反は以下の通りです。 <table><tbody><tr><td>①顧問:</td><td>なし</td></tr><tr><td>②株式保有・利益:</td><td>なし</td></tr><tr><td>③特許権使用料:</td><td>なし</td></tr><tr><td>④講演料:</td><td>なし</td></tr><tr><td>⑤原稿料:</td><td>なし</td></tr><tr><td>⑥研究費:</td><td>●●製薬</td></tr><tr><td>⑦奨学寄付金:</td><td>●●製薬</td></tr><tr><td>⑧寄付講座所属:</td><td>あり(●●製薬)</td></tr><tr><td>⑨贈答品など:</td><td>なし</td></tr></tbody></table>	①顧問:	なし	②株式保有・利益:	なし	③特許権使用料:	なし	④講演料:	なし	⑤原稿料:	なし	⑥研究費:	●●製薬	⑦奨学寄付金:	●●製薬	⑧寄付講座所属:	あり(●●製薬)	⑨贈答品など:	なし
①顧問:	なし																		
②株式保有・利益:	なし																		
③特許権使用料:	なし																		
④講演料:	なし																		
⑤原稿料:	なし																		
⑥研究費:	●●製薬																		
⑦奨学寄付金:	●●製薬																		
⑧寄付講座所属:	あり(●●製薬)																		
⑨贈答品など:	なし																		

質疑応答について

1. 質疑応答に関しては、座長の許可を得てから発言してください。その際は最初に所属、氏名を述べてからご発言ください。
2. 時間が限られていますので、質疑者は発表の終了間際に予め会場内の質疑用マイクの前に立ち、複数の質疑者がいる場合は後ろに並んで順番をお待ちください。進行、質疑の許可は座長に一任しております。
3. 質疑応答の記録は一切とりませんので、予めご了承ください。

会場内での撮影・録音について

会場内での撮影・録音は禁止いたします。

その他

1. 会場内は、禁煙です。
2. 会場内は、所定の場所以外は立ち入り禁止です。
3. 講演中の会場内では、携帯電話およびスマートフォンの電源を切るかマナーモードに設定してください。

プログラム

11月9日(土) 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

第1会場(4F マリンホール)

8:15～ **開会式**

8:25～9:25 **特別講演 1**

座長：遠藤 直人(新潟大学大学院医歯学総合研究科 整形外科学分野)

SL1 AWGSによる新しいサルコペニア診断基準が与えるインパクト

荒井 秀典 国立長寿医療研究センター

9:30～10:30 **特別講演 2**

座長：楽木 宏実(大阪大学大学院医学系研究科 老年・総合内科学)

SL2 新潟県の健康寿命延伸の取り組み —健康立県とフレイル対策—

山崎 理 新潟県 福祉保健部

10:40～12:10 **シンポジウム 1**

[サルコペニア・フレイル対策：地域の最前線] 座長：山崎 理(新潟県 福祉保健部)
飯島 勝矢(東京大学 高齢社会総合研究機構)

SY1-1 フレイル予防のための多職種連携チームの取り組み ～新潟県小千谷市から～

伊藤 真央 小千谷市役所 保健福祉課 健康センター保健係

SY1-2 サルコペニア・フレイルに関する地域活動 ～多職種連携による介入の現状と課題～

佐藤 成登志 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科

SY1-3 住民主体の地域活動「フレイルチェック」を中心とした フレイル予防の地域づくり ～その可能性と課題～

田中 友規 東京大学 高齢社会総合研究機構

SY1-4 地域におけるフレイル・サルコペニア評価と介入の包括的なスキーム

牧迫 飛雄馬 鹿児島大学 医学部保健学科 理学療法学専攻 基礎理学療法学講座

12:20～13:20 **ランチョンセミナー 1**

共催：クラシエ薬品株式会社

座長：若林 秀隆（横浜市立大学附属市民総合医療センター リハビリテーション科）

LS1 がん緩和医療と人参養栄湯

乾 明夫

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 漢方薬理学

13:30～14:00 **総 会**

14:10～15:10 **特別講演 3**

座長：下方 浩史（名古屋学芸大学健康栄養研究所）

SL3 ビタミン D と運動器の健康

中村 和利

新潟大学 大学院医歯学総合研究科 環境予防医学分野

15:20～16:50 **シンポジウム 2**

共催：株式会社 大塚製薬工場

[栄養療法は、侵襲時のサルコペニアを妨げるか？]

座長：小山 諭（新潟大学大学院保健学研究科）

葛谷 雅文（名古屋大学大学院 地域在宅医療学・老年科学）

SY2-1 リハビリテーション治療における栄養と運動の効果 （急性期と回復期リハビリテーションにおける検討）

山内 克哉

浜松医科大学附属病院 リハビリテーション科

SY2-2 胃癌手術とサルコペニア～短期・長期成績とその対策

山本 和義

大阪国際がんセンター 消化器外科

SY2-3 癌診療におけるサルコペニアの意義

播本 憲史

群馬大学大学院 肝胆膵外科学

SY2-4 頭頸部癌治療とサルコペニア

正道 隆介

新潟大学 大学院 医歯学総合研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野

17:00～18:00 **特別講演 4**

座長：吉嶺 文俊（新潟県立十日町病院）

SL4 ポリファーマシーとサルコペニア・フレイル

秋下 雅弘

東京大学大学院医学系研究科 加齢医学

9:30～10:30 特別講演 5

座長：平野 浩彦(東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科)

SL5 摂食嚥下障害とフレイル

井上 誠 新潟大学 大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野

10:40～12:10 シンポジウム 3

共催：サンスター株式会社

[食を支えるためのオーラルフレイル対策 ―エビデンスから地域展開へ―]

座長：平野 浩彦(東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科)

SY3-1 オーラルフレイルの疫学

田中 友規 東京大学 高齢社会総合研究機構

SY3-2 口腔機能低下・オーラルフレイルの視点を持った高齢期の栄養ケアの必要性

本川 佳子 東京都健康長寿医療センター研究所

SY3-3 高齢者の“口の機能低下”と“食べる機能の障害”への対応

松尾 浩一郎 藤田医科大学医学部 歯科・口腔外科学講座

12:20～13:20 ランチョンセミナー 2

共催：アボットジャパン株式会社

座長：秋下 雅弘(東京大学医科学研究科 加齢医学)

LS2 地域高齢者の食品摂取多様性とサルコペニア・フレイル

横山 友里 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム

14:10～15:10 特別講演 6

座長：今井 教雄(新潟大学大学院医歯学総合研究科 地域医療長寿学講座)

SL6 フレイル、サルコペニア、ロコモの疫学

吉村 典子 東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター ロコモ予防学講座

[骨粗鬆症脆弱性骨折の現状と対策：百寿への取り組み]

座長：山本 智章(医療法人愛広会 新潟リハビリテーション病院)

原田 敦(国立長寿医療研究センター 整形外科)

SY4-1 骨折危険因子とその対策 —フレイルとの関連—

佐久間 真由美 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科

SY4-2 整形外科診療所における骨粗鬆症リエゾンサービス多面的連携の取り組み

島垣 斎 整形外科・皮膚科しまがきクリニック

SY4-3 骨折予防のための転倒予防

大高 洋平 藤田医科大学 医学部 リハビリテーション医学Ⅰ講座

SY4-4 骨粗鬆症の薬物治療

中村 幸男 信州大学 医学部 整形外科

17:00～18:00 特別講演 7

座長：神崎 恒一(杏林大学医学部 高齢医学)

SL7 サルコペニア・フレイルの視点からの認知症

小野寺 理 新潟大学 脳研究所 脳神経内科学分野

第3会場(2F 中会議室201)

9:30～10:00 Meet the Expert 1

座長：山本 智章(医療法人愛広会 新潟リハビリテーション病院)

MEX-1 傘寿者対応と DOPPO リハビリ

和泉 徹 恒仁会 新潟南病院

10:10～10:40 Meet the Expert 2

座長：安藤 富士子(愛知淑徳大学 健康医療科学部)

MEX-2 リハビリテーション栄養によるサルコペニア・フレイル介入

若林 秀隆 横浜市立大学附属市民総合医療センター リハビリテーション科

10:50～11:20 Meet the Expert 3

座長：真田 樹義(立命館大学 スポーツ健康科学研究科)

MEX-3 サルコペニアに対する運動療法 —入院高齢者に対する集団起立運動のススメ

吉村 芳弘 熊本リハビリテーション病院 リハビリテーション科 / 栄養管理部

11:30～12:00 Meet the Expert 4

座長：佐久間 真由美(新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科)

MEX-4 身体的フレイルとその予防

金 憲経 東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム

12:20～13:20 ランチョンセミナー 3

共催：株式会社フードケア

座長：飯島 勝矢(東京大学 高齢社会総合研究機構)

LS3 口腔機能低下症への理解を深める！ —フレイル予防の観点から—

松尾 浩一郎 藤田医科大学医学部 歯科・口腔外科学講座

14:10～14:40 **Meet the Expert 5**

座長：木村 慎二（新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科）

MEX-5 サルコペニア・フレイルの病態と機序について：
—up to date—

重本 和宏 東京都健康長寿医療センター研究所 老年病態研究チーム

14:50～15:20 **Meet the Expert 6**

座長：杉本 研（大阪大学大学院医学系研究科 老年・総合内科学）

MEX-6 高齢者における疼痛対策
—薬物、運動から認知行動療法まで—

木村 慎二 新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科

16:00～17:30 **特別シンポジウム**

[サルコペニア・フレイル指導士はどうあるべきか？]

座長：飯島 勝矢（東京大学 高齢社会総合研究機構）
佐竹 昭介（国立長寿医療研究センター）

SS-1 排尿障害と前立腺癌でフレイル / サルコペニア対応を考える

永江 浩史 ながえ前立腺ケアクリニック

SS-2 地域包括ケアシステムの構築に向けた介護予防事業の取り組みについて

高見 靖雄 社会福祉法人東浦町社会福祉協議会 東浦町高齢者相談支援センター

SS-3 地域におけるフレイル・サルコペニア指導士の役割

牧迫 飛雄馬 鹿児島大学 医学部保健学科 理学療法学専攻 基礎理学療法学講座

SS-4 管理栄養士の視点からみたサルコペニア・フレイル指導士の役割

木下 かほり 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

プログラム

11月10日(日) 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

第1会場(4F マリンホール)

9:00～10:00 特別講演 8

座長：秋下 雅弘(東京大学大学院医学系研究科 加齢医学)

SL8 ロコモティブシンドロームと介入による治療効果について —腰部脊柱管狭窄症を中心として—

松本 守雄 慶應義塾大学 整形外科

10:10～11:40 シンポジウム 5

[ロコモ対策は百寿の根幹]

座長：荒井 秀典(国立長寿医療研究センター)

田中 栄(東京大学医学部附属病院 整形外科・脊椎外科)

SY5-1 ロコモの現状とその最新情報

大江 隆史 NTT 東日本関東病院 整形外科

SY5-2 ロコモティブシンドロームの評価

竹下 克志 自治医科大学 整形外科

SY5-3 運動器疾患とフレイル

松井 康素 国立長寿医療研究センター ロコモフレイルセンター

12:10～13:10 ランチョンセミナー 4

共催：株式会社クリニコ

座長：荒井 秀典(国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター)

LS4 これからの社会に求められる口腔機能管理や栄養管理

櫻井 薫 東京歯科大学 名誉教授、こばやし歯科クリニック 顧問

座長：荒井 秀典（国立長寿医療研究センター）

今井 教雄（新潟大学大学院医歯学総合研究科 地域医療長寿学講座）

〔 百寿のために：ロコモ・フレイルを知ろう 〕

1 骨粗鬆症とロコモってなあに？

吉村 典子 東京大学医学部 22世紀医療センター ロコモ予防学講座

2 身体的・認知的・社会的フレイルってなーに？

荒井 秀典 国立長寿医療研究センター

3 ロコモとサルコペニア

田中 栄 東京大学 医学部 整形外科

4 ロコモチェック・ロコトレをしてみよう！

牧迫 飛雄馬 鹿児島大学 医学部保健学科 理学療法学専攻 基礎理学療法学講座

5 フレイル・ロコモ予防と栄養

小川 純人 東京大学医学部附属病院 老年病科

9:00～10:30 シンポジウム 6

[サルコペニアとCKD：病態から治療まで ～日本腎臓学会との合同シンポジウム～]

座長：葛谷 雅文(名古屋大学大学院 地域在宅医療学・老年科学)
鈴木 芳樹(新潟大学 保健管理センター)

SY6-1 慢性疾患に伴うサルコペニアへの対応：オーバービュー

葛谷 雅文 名古屋大学大学院 地域在宅医療学・老年科学

SY6-2 サルコペニアを合併したCKDの病態と疫学

鈴木 芳樹 新潟大学 保健管理センター

SY6-3 CKDの運動療法 ―サルコペニアと重複障害を踏まえて―

磯 良崇 昭和大学スポーツ運動科学研究所

SY6-4 サルコペニアを合併した保存期CKDの食事療法

佐藤 弘恵 新潟大学 保健管理センター

SY6-5 サルコペニアを合併した透析期CKDの管理

加藤 明彦 浜松医科大学医学部附属病院 血液浄化療法部

10:40～12:10 シンポジウム 7

[肥満とサルコペニア、そのシフトチェンジと関連メカニズム]

座長：石井 好二郎(同志社大学 スポーツ健康科学部)
植木 浩二郎(国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター)

SY7-1 サルコペニアの疫学 ～人間ドックのデータの検討から

石澤 正博 新潟大学医歯学総合病院 臨床研究推進センター

SY7-2 骨格筋の量と質と疾患

田村 好史 順天堂大学大学院 スポーツロジックセンター・代謝内分泌内科学

SY7-3 加齢筋におけるオートファジー機能不全と肥満による影響

佐久間 邦弘 東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院

SY7-4 サルコペニアに伴う骨格筋内脂肪蓄積のメカニズム

町田 修一 順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科

LS5 高齢者のフレイル・サルコペニアと漢方薬

小川 純人 東京大学大学院医学系研究科 加齢医学

13:30～15:00 **シンポジウム 8**

[フレイル対策 ―認知、精神、社会的側面からのアプローチ―]

座長：櫻井 孝（国立長寿医療研究センター もの忘れセンター）

神崎 恒一（杏林大学医学部 高齢医学）

SY8-1 認知症の前駆状態としての高齢者フレイル

池内 健 新潟大学 脳研究所 生命科学リソース研究センター

SY8-2 精神疾患とフレイル

福井 直樹 新潟大学医歯学総合病院 精神科

SY8-3 フレイル予防を通じた健康長寿まちづくり ～社会的フレイルとその対応～

飯島 勝矢 東京大学 高齢社会総合研究機構

第3会場(2F 中会議室 201)

9:00～9:30 **Meet the Expert 7**

座長：亀山 仁史(新潟大学消化器・一般外科)

MEX-7 がんロコモとサルコペニア・悪液質

川島 寛之 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 整形外科学分野

9:40～10:10 **Meet the Expert 8**

座長：古賀 寛(新潟大学 フレイル予防のための運動器科学講座)

MEX-8 高齢者脆弱性骨折の現状とロコモ、フレイルとの関連

今井 教雄 新潟大学大学院医歯学総合研究科 地域医療長寿学講座

10:20～10:50 **Meet the Expert 9**

座長：重本 和宏(東京都健康長寿医療センター研究所 老年病態研究チーム)

MEX-9 体幹筋力低下と脊柱変形に伴う難治性腰痛症への対策： 運動療法から外科治療まで～

渡邊 慶 新潟大学 医学部 整形外科

12:20～13:20 **ランチョンセミナー 6**

共催：帝人ファーマ株式会社

座長：楽木 宏実(大阪大学大学院医学系研究科 老年・総合内科学)

LS6 変形性関節症の疫学：住民コホート研究 ROAD より

吉村 典子 東京大学医学部 22世紀医療センター ロコモ予防学講座

一般演題 プログラム

11月9日(土) 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

第4会場(3F 小会議室 303・304)

10:05～11:00 一般演題 1

[内科疾患とサルコペニア・フレイル]

座長：小幡 裕明(新潟南病院 内科・リハビリテーション科)

O1-1 保存期 CKD 患者と比較した血液透析患者の動的バランス機能

白井 信行 新潟臨港病院 リハビリテーション科

O1-2 ロコモティブシンドロームは血液透析患者の QOL 低下と関連する

北林 紘 新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎・膠原病内科

O1-3 フレイルを合併した心不全患者の退院時における HRQOL の特徴について

森田 和弥 社会医療法人天神会 新古賀病院 リハビリテーション課

O1-4 高齢心不全患者におけるフレイル基準に対する膝伸展筋力と最高酸素摂取量の関連

横手 翼 麻生飯塚病院 リハビリテーション部

O1-5 心臓血管外科術前のフレイルは術後1年以内の入院率と遠隔死亡率に関連する

新井 康弘 地域医療振興協会 練馬光が丘病院 リハビリテーション室

O1-6 心臓血管疾患患者の術前骨格筋密度は術前リスクスコアとサルコペニアに対して補完的予後予測能を有する

山下 真司 北里大学大学院医療系研究科

11:05～12:00 一般演題 2

[脳血管疾患関連]

座長：青木 可奈(新潟西蒲メディカルセンター病院 リハビリテーション科)

O2-1 パーキンソン病におけるフレイルの有病率と関連する因子の検討

渡邊 大介 独立行政法人 国立病院機構 いわき病院

O2-2 脳卒中患者のサルコペニアの改善は機能的予後に好影響を与える

長野 文彦 熊本リハビリテーション病院 リハビリテーション部

O2-3 サルコペニアを有する脳卒中患者における起立着席運動の臨床効果

長野 文彦 熊本リハビリテーション病院 リハビリテーション部

O2-4 サルコペニアがパーキンソン病患者の運動療法効果に及ぼす影響についての検討

鈴木 光司 国立病院機構 いわき病院

02-5 回復期リハビリテーション病棟退棟時における脳卒中患者のサルコペニアは ADL と関連する

田口 詩織 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 臨床部

02-6 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者のサルコペニアとサルコペニア肥満は入棟時 ADL と関連する

松下 武矢 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 臨床部

14:10～14:45 **一般演題 3**

[栄養関連]

座長：小山 諭（新潟大学大学院保健学研究科）

03-1 消化器癌患者への体組成・握力測定を取り入れた栄養食事指導の取り組み

田中 友梨 JCHO 札幌北辰病院 栄養管理室

03-2 安定期 COPD 患者におけるサルコペニアと低栄養の関連

国方 ちあき 坂出市立病院 栄養管理科

03-3 高齢 2 型糖尿病患者におけるサルコペニアと身体活動・栄養の関連

内田 佳那 聖徳大学大学院 人間栄養学研究科

03-4 保険薬局の栄養ケアサポートによる高齢者の栄養改善効果と低栄養予防に関する意識・行動変容に関する研究

溝口 遼 セイコーメディカルブレイン株式会社

03-5 回復期リハビリテーション病棟入院患者の体重変化と、栄養改善の取り組み

江頭 誠 市立吹田市民病院 リハビリテーション科

15:10～16:05 **一般演題 4**

[運動器疾患・リハビリテーション]

座長：藤縄 理（福井医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科）

04-1 総合事業通所型サービス C 終了後の介護保険認定に関連する身体的要因

丸山 潤 JA 新潟厚生連 小千谷総合病院 リハビリテーション科

04-2 理学療法実施中の急性期脳卒中患者における下肢筋の筋厚と筋輝度の経時的変化

五十嵐 達也 社会医療法人輝城会 沼田脳神経外科循環器科病院

04-3 自宅トイレ関連転倒・骨折高齢者の動作解析から見えてきた回旋の重要性

孫 輔卿 東京大学大学院 医学系研究科 在宅医療学講座

04-4 骨粗鬆症患者とサルコペニア、フレイルの関係についての検討

西口 雅彦 恩賜財団済生会みすみ病院

O4-5 大腿骨近位部骨折患者におけるサルコペニアの実態と ADL に影響する因子の検証

永井 多賀子 日本大学病院 リハビリテーション科

O4-6 関節リウマチとフレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームとの関連について

小嶋 雅代 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター フレイル研究部
ロコモ研究室

16:10～17:05 **一般演題 5**

[疫学]

座長：大橋 正幸（新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座）

O5-1 回復期リハビリテーション病棟におけるサルコペニアに関連する因子の検討

川村 皓生 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

O5-2 ADL 低下による高齢者コホート研究脱落群における、ロコモ、フレイル、サルコペニアの影響 —Shiraniwa Study—

大山 翔一郎 大阪市立大学大学院 整形外科

O5-3 地震・津波・原発被害を受けた地域での骨折で入院する高齢者とフレイルの関係の検討

末永 由美 南相馬市立総合病院

O5-4 地域在住高齢者における社会参加と身体的フレイルの関連：糸島フレイル研究

吉田 純一 医療法人相生会 訪問看護ステーション吉塚

O5-5 地域在住高齢者（71 歳～75 歳）のフレイル有症率 —平成 23 年以降 5 年間の推移—

依田 拓也 新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座

O5-6 フレイルの認知率の高い町ではフレイルの悪化・新規介護新規認定が少ない —後期高齢者の悉皆パネルデータによる後ろ向き研究—

田中 友規 東京大学 高齢社会総合研究機構

O6-1 フレイルとグリケーションについての検討

上瀬 英彦 上瀬クリニック

O6-2 サルコペニアにおける酸化ストレスの関与および抗酸化剤の効果の検討

木下 英幸 千葉大学大学院医学研究院 整形外科科学

O6-3 急性期における生体電気インピーダンス法による筋肉量評価：
細胞外水分比と骨格筋指数に基づく分類と臨床データとの関連

入江 将考 国家公務員共済組合連合会 新小倉病院 リハビリテーション部

O6-4 クレアチニン－シスタチン C 比は大腿筋量の簡便なマーカーである

田原 康玄 京都大学 大学院医学研究科 附属ゲノム医学センター

O6-5 運動器疾患におけるサルコペニア検出のための SARC-F の診断精度の検証と、
SARC-F+EBM スコアの導出：SPSS-OK 研究第6報

栗田 宜明 福島県立医科大学 大学院医学研究科 臨床疫学分野

O6-6 マイオカイン IL-15 の細胞局在とシグナル伝達における受容体の役割

吉田 紫乃 大阪大学 老年・総合内科学

- P1-1** 管理栄養士による歯科医院での栄養指導の一例
水元 ちひろ K DENTAL CLINIC
- P1-2** 地域在住高齢女性の集団データを用いたフレイル予防のための
食品摂取頻度パターン作成の試み
小島 成実 東京都健康長寿医療センター研究所
- P1-3** 高齢者の低栄養における腸内細菌叢の検討
土井 美希 岡山県立大学院 保健福祉学研究科 栄養学専攻
- P1-4** スケトウダラタンパク質摂取による骨格筋肥大効果
藤谷 美菜 愛媛大学 大学院農学研究科 栄養科学教育分野
- P1-5** スケトウダラタンパク質による骨密度改善メカニズム解明
吉田 恵里子 日本水産株式会社 食品機能科学研究所
- P1-6** 朝の魚肉タンパク質の摂取が高齢者の骨格筋量および筋力に及ぼす影響
金 鉉基 早稲田大学 先進理工学部
- P1-7** 回復期脳卒中患者における非麻痺側身体測定値の低骨格筋量に対する
妥当性の検証
山内 杏奈 長崎リハビリテーション病院 臨床部
- P1-8** 自主トレーニングを行う左視床出血による右片麻痺患者に対して、
リハビリテーション栄養介入を行い自宅退院に導いた一症例
長嶺 美鈴 医療法人社団刀圭会 協立病院 栄養課
- P1-9** 地域在住高齢者における口腔機能とサルコペニアとの関連の検討
八田 昂大 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 有床義歯補綴学・
高齢者歯科学分野
- P1-10** 地域在住健常高齢者の摂食嚥下機能について
～基本チェックリストと摂食嚥下障害スクリーニング検査を用いての検討～
松原 慶吾 熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻
- P1-11** フレイルと口腔機能との関連性の検討
—フレイルのリスク評価として、咬合力の有用性—
佐川 敬一朗 日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック
- P1-12** 地域在住高齢者におけるオーラルディアドコネシスと筋量および
筋力との関連
佐藤 健 同志社大学大学院 スポーツ健康科学研究科

- P1-13** 地域在住高齢者における定期歯科健診受診とフレイルの関連
—後期高齢者悉皆調査パネルデータより—
西本 美紗 東京大学高齢社会総合研究機構
- P1-14** 介護老人保健施設における食形態と舌圧の相関性
荒井 健 城西大学 薬学部 医療栄養学科
- P1-15** フレイル予防に取り組む高齢女性のヘルスリテラシー
善生 まり子 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 老年看護学分野
- P1-16** 入院加療を回避し難治性潰瘍に炭酸ガスミスト法が奏功した事例
武安 美希子 医療法人知邑舎 メディカルサテライト岩倉
- P1-17** 地域在住高齢者を対象とするフレイルイベント有用性の検討
中谷 美夏 医療法人社団 創福会 ふくろうクリニック等々力
- P1-18** 地域高齢者における食事中的会話とフレイルの関連：柏スタディー
スタッヴォラヴァット アンヤポーン 東京大学大学院医学系研究科
- P1-19** 大腿四頭筋セッティング式筋力は身体機能に関わる QOL を反映する
伊藤 祐希 同志社大学大学院 スポーツ健康科学研究科
- P1-20** フレイルチェック後のグループディスカッションによる
意識・行動変容に関する混合研究
高橋 競 東京大学 高齢社会総合研究機構
- P1-21** 1訪問看護ステーションにおけるサルコペニア・フレイルの認知度について
古谷 直弘 株式会社 Reha Labo Japan リハラボ訪問看護リハビリステーション
- P1-22** 地域在住高齢者における体組成および筋質と身体機能との関連
内山 朋香 株式会社タニタ
- P1-23** 放送メディアを活用した複合的プログラムが地域在住高齢者の健康行動と
ヘルスリテラシーに与える影響 —Nagoya-TENG Project より
井上 愛子 名古屋大学 未来社会創造機構 ナノライフシステム研究所
- P1-24** フレイルに対する鍼灸施術に関する研究
鍼灸院に来院する高齢者のフレイルの状況
佐竹 美香 ハッピー・治療室
- P1-25** ERK は成体骨格筋における幹細胞プール維持に重要な役割を果たす
細山 徹 国立長寿医療研究センター 再生再建医学研究部

一般演題 プログラム

11月10日(日) 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

第4会場(3F 小会議室 303・304)

9:00～9:55 一般演題7

[予防・医療行政] 座長：依田 拓也(新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座)

07-1 重複フレイル改善を目的としたプログラム参加者と不参加者の特性比較

金 憲経 東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム

07-2 プレフレイル女性高齢者の通いの場参加有無別1年後の比較検討

森 優太 星城大学大学院 健康支援学研究科

07-3 大学生の体組成、筋力、食習慣、身体活動に関する実態調査 —若年者におけるサルコペニアの検討—

日下部 徹 国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター

07-4 健康増進施設に通う地域高齢者の1年後の身体的変化

鈴木 広大 医療法人和幸会 阪奈中央病院 リハビリテーション科

07-5 医学生が主体となり取り組むフレイル予防プロジェクトの運営

上野 裕生 旭川医科大学医学部 医学科

07-6 地域在住高齢者におけるフレイルと基本チェックリスト構成要素との関連

原田 直樹 社会医療法人共愛会 戸畑リハビリテーション病院

10:00～10:55 一般演題8

[嚥下・その他] 座長：木村 慎二(新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科)

08-1 フレイル予防のための還元型コエンザイム Q10による骨脆弱性の改善

若林 広行 新潟薬科大学 薬学部 臨床薬物治療学研究室

08-2 高次の生活機能が低下した高齢2型糖尿病患者の特徴 —横断的分析—

畑山 夏代子 独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター リハビリテーション科

08-3 入院中に発症する摂食嚥下障害にはサルコペニアが関連する

前田 圭介 愛知医科大学大学院 緩和・支持医療学

08-4 サルコペニアの摂食嚥下障害と診断し喉頭挙上術を施行した一例

大久保 啓介 佐野厚生総合病院 耳鼻咽喉科

08-5 地域在住高齢者における複合的健康増進プログラムによる食事摂取状況と身体・口腔機能の関係 —Nagoya-TENG Project より—

宇野 千晴 名古屋大学 未来社会創造機構

08-6 急性期病院における市中肺炎患者の Clinical Frailty Scale の変化と低下に影響を与える因子の検討

後藤 圭 社会医療法人 製鉄記念八幡病院

11:00～11:55 **一般演題9**

[高齢者とサルコペニア・フレイル]

座長：田仕 英希（新潟大学大学院医歯学総合研究科 フレイル予防のための運動器科学講座）

09-1 健常高齢者におけるフレイル予防に関する要因の検討
—NLS-HE より—

宇野 千晴 名古屋学芸大学大学院 栄養科学研究科

09-2 30秒椅子立ち上がりテストは75歳以上の高齢者の移動能力を評価する上で有用な指標である

沢田 秀司 順天堂大学

09-3 階調別筋エコー強度に着目した要介護高齢者に対するリハビリテーショントレーニング効果の検討

吉子 彰人 中京大学

09-4 運動教室に3年間継続して参加した高齢者の日常身体活動の縦断的变化

鄧 鵬宇 順天堂大学

09-5 地域在住高齢者におけるロコモティブシンドロームの3年間の縦断的变化

内田 一彰 神戸大学大学院保健学研究科

09-6 専門職による多職種での運動器健康教室の有用性

小山 環 医療法人社団 唱和会 明野中央病院

- P2-1** 慢性呼吸器疾患患者におけるサルコペニア改善に向けての取り組み
～患者手帳を用いて～
上野 正典 高山赤十字病院 リハビリテーション科
- P2-2** 当院初期もの忘れ外来受診した高齢女性における社会的フレイルについて
—居住世帯と社会的孤立の関連—
村川 佳太 社会医療法人愛仁会 高槻病院 技術部リハビリテーション科
- P2-3** リハ特化型デイサービスはサルコペニアの重症化を予防できるのか
中北 智士 社会医療法人三車会 Acti-va
- P2-4** 慢性硬膜下血腫術後患者における生体電気インピーダンス分析を用いた
四肢筋肉量の評価から浮かぶ身体的特徴
廣井 望 とちぎメディカルセンター しもつが
- P2-5** 腰椎術後患者の動作能力および QOL にサルコペニアが及ぼす影響
林 知希 医療法人社団おると会 浜脇整形外科リハビリセンター リハビリテーション科
- P2-6** 当院における高齢血液透析患者の低栄養と身体機能、
およびフレイルとの関連性についての報告
塩澤 光正 埼玉クリニック リハビリテーション科
- P2-7** 血液透析患者におけるサルコペニア有症率及び運動介入開始基準の検討
秋山 慶文 医療法人社団豊生会 東苗穂病院 リハビリテーション部
- P2-8** 廃用性筋萎縮に対する運動介入が脳由来神経栄養因子 BDNF に与える影響の
基礎的検討
相原 正博 帝京科学大学 医療科学部 理学療法学科
- P2-9** The Connection Between Exercise Consciousness and Physical Function
Impairment Risk : A cross-sectional exhaustive survey
呂 偉達 東京大学 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻
- P2-10** フレイルティを有した高齢心不全症例で心臓外科手術後に自宅退院を遂げた1例
若菜 理 社会医療法人天神会 新古賀病院 リハビリテーション課
- P2-11** 参加者の運動機能の差が大きい介護予防教室における選択式の2種類の
ロコモ予防体操の実装について
原田 悠平 アルケア株式会社

- P2-12** 急性期脊椎圧迫骨折患者における入院時下肢筋力が退院時身体機能に与える影響
岸本 英孝 国家公務員共済組合連合会 新小倉病院 リハビリテーション部
- P2-13** ロコモティブシンドロームによって下肢周囲径に違いは生じるか
棗 寿喜 順天堂大学
- P2-14** 自立型有料老人ホームにおける80～90代で運動教室への参加により身体機能の改善がみとめられた事例報告
宮崎 祐 株式会社東急イーライフデザイン
- P2-15** 80代を中心とする高齢者での身体機能改善には週2回以上のレジスタンス運動の継続が重要である
財部 芳崇 株式会社東急イーライフデザイン
- P2-16** フレイルを有する慢性呼吸器疾患患者への理学療法介入後のフレイルの改善に影響する因子の検討
高山 絵里 埼玉医科大学病院 リハビリテーション科
- P2-17** 腎移植周術期リハビリテーションが身体機能と体組成に及ぼす影響
加嶋 憲作 高知医療センター 医療技術局 リハ技術科
- P2-18** 多職種連携による健康教室でのサルコペニア・フレイル調査と関連因子の検討
木部 竜也 九州旅客鉄道株式会社 JR九州病院 リハビリテーション室
- P2-19** フレイル予防サポーターにおけるフレイル兆候の改善：縦断研究
藤崎 万裕 東京大学高齢社会総合研究機構
- P2-20** フレイルチェック開催方法の相違における対象者の特性についての検討
吉澤 裕世 東京女子医科大学 看護学部 地域看護学
- P2-21** 慢性腎不全関連サルコペニアにおける鉄代謝異常
堀ノ内 裕也 徳島大学大学院医歯薬学研究部 薬理学
- P2-22** 若年女性における握力の現状と関連する因子の解析
花村 衣咲 中村学園大学 栄養科学研究科 機能栄養科学分野
- P2-23** 地域在住高齢者における食欲とフレイル・CGA項目に関する検討
石本 恭子 川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科
- P2-24** 地域在住高齢女性における重複フレイルの有症率とその特徴について
上田 由美子 東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム
- P2-25** 地域在住高齢女性におけるヨガ習慣とフレイル有症率との関連
青木 登紀子 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所

- P2-26** 高齢者のフレイルと地域活動への参加・地域への信頼感との関連性
村田 加奈子 昭和大学 保健医療学部 看護学科
- P2-27** 介護予防事業参加高齢者におけるフレイルおよび
身体機能の2年間の変化について
大西 丈二 名古屋大学 老年内科
- P2-28** 地域在住高齢者の整容とフレイルの関連：柏スタディ
西本 美紗 東京大学高齢社会総合研究機構
- P2-29** 高齢関節リウマチ患者の身体活動量に関連する要因
—身体組成、身体機能に着目して—
平 和晃 公益財団法人白浜医療福祉財団 白浜はまゆう病院
南紀白浜温泉リハビリテーションセンター
- P2-30** 認知症患者におけるサルコペニア、フレイル合併の頻度
降矢 芳子 東京女子医科大学東医療センター リハビリテーション科
- P2-31** 特定健診の項目のみでサルコペニアのスクリーニングが可能か
高田 博輝 高田内科医院
- P2-32** 高齢入院患者における低筋肉量評価の妥当性
—下腿周囲長と推定式における比較研究—
野崎 奨 聖隷福祉事業団 松戸ニッセイ聖隷クリニック 医療技術事務課
- P2-33** ロコモフレイルセンターレジストリ先行研究
～高齢 COPD 患者の基本チェックリスト(KCL)によるフレイル評価の
8年間の追跡～
千田 一嘉 国立長寿医療研究センター ロコモフレイルセンター
- P2-34** 高齢消化器癌患者の術前機能評価と生命予後との関連
安延 由紀子 大阪大学大学院医学系研究科 老年・総合内科学
- P2-35** 透析導入前慢性腎臓病患者におけるポリファーマシーの実態と腎予後への
影響に関する検討
小田 朗 福島県立医科大学 医学部 腎臓高血圧内科学講座
- P2-36** 地域在住の前期高齢者フレイルに関する5年間の追跡調査
—フレイル新規発生の危険因子の検討—
大橋 正幸 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座

- P2-37** 中山間地域の高齢者における骨格筋量の低下が脚伸展筋力と歩行動作に及ぼす影響
西野 勝敏 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター
- P2-38** 医療機関通院中の地域住民におけるサルコペニア実態調査—Kadoma Sarcopenia Study—
黒瀬 聖司 関西医科大学 健康科学教室
- P2-39** 高齢者フレイルのリスク因子の検討
浅岡 大介 順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター
- P2-40** サルコペニア診断のための大腿部 CT の有用性
大羽 宏樹 名古屋大学医学部 整形外科
- P2-41** 高齢者のサルコペニア、筋質評価における下腿筋エコーの有用性
井坂 昌明 大阪大学大学院医学系研究科 老年・総合内科学
- P2-42** 漢方補腎薬の抗フレイル効果の検証に向けての我々の取り組み～腎虚スコアの開発
梶本 勝文 大阪大学大学院医学系研究科 先進融合医学共同研究講座
- P2-43** 広範囲筋断面描出可能な骨格筋評価専用超音波診断装置の開発
松井 康素 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
- P2-44** 心不全患者における血清クレアチニン・シスタチン C 比による四肢骨格筋量推定
小西 正紹 公立大学法人横浜市立大学附属病院 循環器・腎臓・高血圧内科学
- P2-45** サルコペニアにおける脂肪酸代謝の病態生理学的意義
松島 慶央 久留米大学医療センター 循環器内科
- P2-46** 腎移植患者におけるサルコペニアと Phase angle の関連についての検討
香東 昌宏 大阪市立大学 大学院医学研究科 泌尿器病態学
- P2-47** 大腸癌切除症例におけるサルコペニア評価の有用性
下國 達志 地域医療機能推進機構 札幌北辰病院 外科
- P2-48** 関節リウマチ患者に対する栄養、運動介入は生物学的製剤導入患者において特に有用である
吉田 祐志 大阪南医療センター リウマチ膠原病アレルギー科
- P2-49** 変形性膝関節症の疫学因子に対する縦断的検討
渡邊 博史 JA 新潟厚生連 新潟医療センター

- P2-50** ロコモフレイル外来受診者におけるサルコペニアに関連する因子の検討
高橋 智子 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
- P2-51** 冠動脈多枝病変、重症心不全、慢性腎不全を有するサルコペニア症例に対して多面的な介入を行い明らかな改善を認めた一例
小林 隆洋 地方独立行政法人 長野市民病院
- P2-52** 背景にサルコペニアを有したと思われる術後呼吸不全症例を担当して
吉岡 雄一 福山市民病院
- P2-53** 大腿骨近位部骨折術後症例におけるフレイルリスク
保地 真紀子 新潟中央病院 リハビリテーション部
- P2-54** 急性期内科患者におけるサルコペニア・フレイルへの包括的介入の Feasibility
濱田 和美 国家公務員共済組合連合会 新小倉病院 リハビリテーション部
- P2-55** 高齢者における2年間の短時間機能訓練の効果：体温に注目して
武内 孝太郎 医療法人清水会 鶴見緑地病院
- P2-56** フレイルに対する運動介入の効果
—重錘負荷ステッピング運動を用いて—
駒場 郁子 八戸の里病院 リハビリテーション科
- P2-57** 病床機能を活用したフレイル高齢患者の歩行機能を守る
包括的リハビリテーションの取り組み：DOPPO リハビリ
小幡 裕明 新潟南病院 リハビリテーション科
- P2-58** やせ型で筋肉量の少ない中高年女性においては、短期間の簡単な筋力トレーニング及び牛乳摂取によって四肢筋肉量増加が可能
金子 みち代 和洋女子大学 看護学部 看護学科
- P2-59** 地域在住高齢者における骨量および筋量の低下と身体活動との関連性
谷口 善昭 鹿児島大学大学院 保健学研究科
- P2-60** 骨粗鬆症と転倒の予防教室の短期的効果
藤縄 理 福井医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科
- P2-61** 急性期内科患者に対する包括的介入におけるサルコペニアの実態調査
森田 康之 国家公務員共済組合連合会 新小倉病院 リハビリテーション部
- P2-62** 長期間の自発運動が身体機能に及ぼす影響について
～家族性アルツハイマー病危険因子ノックインマウスを用いての研究～
松田 史代 鹿児島大学 医学部保健学科

- P2-63** リハ特化型デイサービス利用者のプレサルコペニア及びダイナペニアと歩行能力の変化との関係性の検討
山本 奈都季 社会医療法人三車会 Acti-va
- P2-64** 緊急開腹術後患者の術前大腰筋面積が術後経過に与える影響
三浦 早織 埼玉医科大学病院 リハビリテーション科
- P2-65** 軽度代謝性疾患と過剰体脂肪蓄積を有する中高齢女性における客観的日常生活活動水準指標と筋量・筋力
綾部 誠也 岡山県立大学 情報工学部
- P2-66** IoT ウェアラブル端末(モフバンド)を用いた TUG の動作フェーズ分析・可動範囲分析
添野 祥子 総合南東北病院
- P2-67** 腎移植患者のフレイルの関連因子についての検討
香東 昌宏 大阪市立大学 大学院医学研究科 泌尿器病態学
- P2-68** 造血管腫瘍患者の入院治療期間におけるサルコペニア有病率の変化と関連因子の検討
内村 信一郎 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院 診療技術局 リハビリテーション科
- P2-69** 外来血液透析患者に認められるプレフレイル・フレイルの特徴
池淵 雅士美 医療法人真鶴会 小倉第一病院
- P2-70** 慢性肝疾患における肝線維化および肝機能障害と2次性サルコペニアとの関連性
筆保 健一 広島大学病院 診療支援部 リハビリテーション部門
- P2-71** 外来フレイル患者における合併症、身体機能障害の集積が与える影響について
小笠原 巧 名古屋大学大学院 医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学
- P2-72** 血液透析患者における健康関連 QoL と身体的フレイルとの関係
松沢 良太 兵庫医療大学 リハビリテーション学部
- P2-73** がん悪液質に伴う筋萎縮に対する Pre-Exercise による予防効果
田中 稔 大阪大学大学院医学系研究科 老年・総合内科学
- P2-74** 消化器疾患におけるサルコペニアの現状
小田 耕平 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 消化器疾患・生活習慣病学

特別講演



新潟のお米（米どころ新潟）

新潟県の水と土地が育んだお米は一流ブランドとして有名です。お米の生育に適した気候や土地、水など、自然環境や風土のもつ力が大きいといわれています。お米のブランドとしてコシヒカリが有名ですが、現在でも品種改良がすすんでおり、新しいブランド米として大粒でツヤのある「新之助」が注目されてきています。

SL1

AWGS による新しいサルコペニア診断基準が
与えるインパクト

荒井 秀典

国立長寿医療研究センター

略 歴

1984年 京都大学医学部 卒業
1991年 京都大学大学院医学系研究科
修了
1993年 カリフォルニア大学
サンフランシスコ校
ポスドクトラルフェロー
1997年 京都大学医学部老年内科 助手
2003年 京都大学医学部老年内科 講師
2009年 京都大学医学部人間健康科学科
教授
2015年 国立長寿医療研究センター
副院長
2018年 国立長寿医療研究センター
病院長
2019年 国立長寿医療研究センター
理事長
現在に至る

2014年にアジアサルコペニアワーキンググループ (AWGS) が、アジア人のためのサルコペニアの診断基準を発表して5年が経過した。この間、2017年12月には我が国において当学会を中心にサルコペニア診療ガイドラインが発表され、2018年10月にはEWGSOPによるサルコペニア診断基準の改訂が発表された。AWGSにおいては当初より5年後の改訂を計画していたため、2019年1月より改訂に向けた活動を開始した。5年間でAWGS基準を用いた多くの研究成果が発表されたが、サルコペニア診療ガイドラインで行った文献レビューに加えて、新しい文献検索をも行い、名古屋及び香港でのワーキンググループによる議論を経て、新たな基準を2019年10月に発表することとなった。本講演においては、診断基準改訂に至るプロセスを明らかにするとともに、改訂された診断基準の内容を明らかにし、今後の診療現場に与えるインパクトについて議論したい。

一般演題

口演発表



スキー発祥の地

新潟県上越市高田（合併し、高田市→上越市）

今から約100年前の1911年（明治44）1月12日、日本ではじめてのスキー指導が上越市で行われました。スキーが日本に伝わる少し前、日本は大国・ロシアとの戦争に勝利しましたが、一方、江戸時代には越後一の城下町であった高田は、明治になると賑いを失いかけていました。そこで、高田の人たちは、師団を高田によんで活気づかせようしました。この運動は見事に成功し、第13師団が高田に置かれて町が活気づくとともに、日本で初めてのスキーを呼びこむことになったのです。

当日、13師団歩兵第58連隊の将校たちにスキー指導を行った、オーストリア・ハンガリー帝国の軍人で少佐のレルヒは、現在新潟県の“ゆるキャラ”「レルヒさん」として新潟県内の各地に出没しています。

O1-1 保存期 CKD 患者と比較した血液透析患者の動的バランス機能

○白井 信行¹⁾²⁾、山本 卓²⁾、大澤 豊³⁾、椿 淳裕⁴⁾、森下 慎一郎⁴⁾、五十嵐 佳南¹⁾⁴⁾、
福田 佳歩¹⁾、成田 一衛²⁾

1)新潟臨港病院 リハビリテーション科、2)新潟大学大学院医歯学総合研究科、3)新潟臨港病院 内科、
4)新潟医療福祉大学大学院

【はじめに】慢性腎臓病(CKD)患者のうち血液透析(HD)患者は特にフレイル・サルコペニアに陥りやすい。私達は、HD患者は保存期CKD患者より下肢筋力が低下していることを明らかにしたが、転倒や生命予後に関わるバランス機能を比較した報告は少ない。本研究の目的は、HD患者と保存期CKD患者の動的バランスの違いとその要因を明確にすることである。

【方法】当院に外来通院するCKDステージ3a~5DのCKD患者119名(HD群65名、保存期CKD群54名)を対象とした横断研究である。動的バランスはTimed Up & Go Test(以下;TUG)を測定し、診療録より基本情報と血液データを調査。HD群と保存期CKD群で各評価項目を比較し、その後、TUGを従属変数とした重回帰分析を行った。

【結果】TUGはHD群が保存期CKD群より有意に遅

かった[HD:8.8(7.6,11.8)秒 vs 保存期CKD:6.5(5.7, 7.3)秒 $p<0.001$]。重回帰分析の結果、年齢とともにHDの有無はTUG($R^2=0.30$, $\beta=0.38$, $p<0.001$)の独立した影響因子であった。

【結論】HD患者の動的バランスは保存期CKD患者より低下しており、HDは動的バランスに影響する因子であることが明らかとなった。透析導入後のバランス機能維持のために、その機序の解明とともに保存期からの介入が必要と考えられた。

O1-2 ロコモティブシンドロームは血液透析患者のQOL低下と関連する

○北林 紘¹⁾²⁾、片野 佑美²⁾、ジュースティニ 佳世子³⁾、恵 以盛³⁾、石井 雄士²⁾、山本 卓¹⁾、
成田 一衛¹⁾

1)新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎・膠原病内科、2)新光会村上記念病院、3)山東第二医院

【目的】ロコモティブシンドローム(ロコモ)が血液透析(HD)患者のQOLに及ぼす影響を検討するため、横断調査を実施した。

【方法】同意を得た外来HD患者76名(男52名、年齢中央値67.5歳、透析歴中央値7年、ロコモ度1:19名、ロコモ度2:53名)を対象に、従属変数はSF-36による11尺度(点、国民標準値)、独立変数は性別(男女)、年齢(歳)、透析歴(年)、ロコモ度(ロコモ度ステージ)、Phase Angle($^{\circ}$)、低筋肉量(SMI低値の有無:男 $<7.0\text{ kg/m}^2$, 女 $<5.7\text{ kg/m}^2$)、GNRI(点)として重回帰分析を行った。有意水準は $p<0.05$ とした。

【結果】身体的サマリースコア {有意な独立因子:ロコモ度[非標準化係数95%CI(β)= $-18\sim-6$, 標準化係数(β')= -0.43]、Phase Angle($\beta=0\sim10$, $\beta'=0.30$)、GNRI($\beta=-1\sim0$, $\beta'=-0.23$)}、身体機能[ロコモ度

($\beta=-23\sim-8$, $\beta'=-0.46$)]、日常役割機能身体[ロコモ度($\beta=-17\sim-5$, $\beta'=-0.42$)]、体の痛み[ロコモ度($\beta=-13\sim-3$, $\beta'=-0.41$)、GNRI($\beta=-1\sim0$, $\beta'=-0.25$)]、社会生活機能[性別($\beta=1\sim14$, $\beta'=0.25$)、透析歴($\beta=-1\sim0$, $\beta'=-0.30$)、ロコモ度($\beta=-13\sim-1$, $\beta'=-0.31$)]、日常役割機能精神[ロコモ度($\beta=-16\sim-2$, $\beta'=-0.34$)、低筋肉量($\beta=1\sim15$, $\beta'=0.26$)]に有意性を認めた。

【結論】HD患者のロコモは広範囲かつ強力にQOLの低下と関連していた。

Blank lined paper with horizontal dashed lines for writing.

第6回 日本サルコペニア・フレイル学会大会 プログラム・抄録集

大 会 長：遠藤 直人

事 務 局：新潟大学大学院医歯学総合研究科 整形外科学分野
〒951-8510 新潟市中央区旭町通1番町757
TEL：025-227-2272 FAX：025-227-0782

運営事務局：株式会社アド・メディック内
担当：東海林 豊／川崎 芽衣
〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野310
TEL：025-282-7035 FAX：025-282-7048
E-mail：jasf6@admedic.co.jp

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>